

2. 1971年度(第20次)北洋捕鯨の漁況

(1) 東経漁場を中心として

川 島 和 幸(株式会社極洋)

第3極洋丸船団は5月2日千葉港を出港し、5月7日操業開始、9月5日操業終了、9月10日千葉港に入港した。

操業日数122日、往復航10日、出漁日数132日であった。

捕獲頭数、ナガスクジラ178頭、イワシクジラ974頭、マッコウクジラ773頭。生産、ナガス油3,456吨、冷凍塩蔵その他1,904吨、合計15,365吨。マッコウ油5,510吨、冷凍塩蔵その他2,775吨、合計8,285吨。総生産23,650吨であった。

1. 前期東経漁場5月7日—6月28日 53日間

緯度 43°N — 53°N

ナガス137、イワシ582、シロナガス換算165.⁵⁰、マッコウ124

例年オホーツク海より出た高気圧が東経をおおい天候良い時期であるが、本年は異例で低気圧の通路となり且移動速度が30~40ノットと早かったため、天候をかわすこともできず悪天候が続いた。初期漁場の水温は18北19北に比し高目で16、17北当時に近い感をうけたが、収東線の起伏が極めて大きかったためか漁場は南北に局所的に散在しており、連続操業ができず苦慮した。6月下旬に入り梅雨前線の活動も活発となり東経漁場全域がガス域となったので、15京丸の初期調査を参考にアラスカ漁場向け移動開始した。

2. 東進移動操業(西経)6月29日—7月6日 8日間

緯度 44°N — 52°N 150°W 以西

イワシ9、シロナガス換算1.⁵⁰、マッコウ73

移動性高気圧と共に東進すべく極力移動を急いだが大型マッコウの処理、仲積船への製品搬出が重なり、移動の足をうばわれている間にガス帯に追いつかれる場面もあったが嵐の日が続いた。昨年の西経イワシクジラ実績漁場も発見が少なかったので、マッコウの発見あった場合は捕獲しつつ東進した。

3. アラスカ漁場7月7日—7月19日 13日間

緯度 43°N — 49°N

ナガス9、イワシ55、シロナガス換算13.⁶⁶、マッコウ253

中緯度高気圧の圏内で天気良好の日が続いた。15京丸が初期調査した時のイワシクジラ発見を参考に移動したが、漁場は変化し鯨の少ない上日本の3船団が蟄集する結果となったので、アラスカの操業は短期間で断念し天候の良い南側を廻りマッコウを捕獲しつつ西進した。

4. 西進移動操業 7月20日～7月28日 9日間

緯度 $45^{\circ}\text{N} \sim 49^{\circ}\text{N}$

ナガス9、イワシ84、シロナガス換算 18.5^0 、マツコウ92

高気圧の圏内で連日好天に恵まれた。発見もイワシ、マツコウが交互に続き比較的順調に推移した。しかし東経の天候が回復次第イワシ主体の操業を行うべく西進を急いだ。

5. 前期列島漁場 7月29日～8月3日 6日間

緯度 $49^{\circ}\text{N} \sim 53^{\circ}\text{N}$

ナガス2、イワシ6、シロナガス換算 2.5^0 、マツコウ150

東経イワシクジラ漁場を操業すべく西進したが、南側の天候が悪いのでこの間列島沿いにマツコウ操業を行うべく北上して操業した。

6. 後期東経漁場 8月4日～8月18日 15日間

緯度 $42^{\circ}\text{N} \sim 51^{\circ}30'\text{N}$

ナガス20、イワシ227、ニタリ11、シロナガス換算 47.8^3 、マツコウ48

南側の天候が回復したので急速南下。比較的天候に恵まれて自社ヒゲクジラ捕獲枠を完了することができた。しかしその後次々に台風くずれが東経漁場に入り操業も不可能な状態となった。そこでマツコウ残頭数を勘案し天候の良い西経漁場で操業することとして東進した。

7. 東進移動操業(東経) 8月19日～8月21日 3日間

緯度 $46^{\circ}30'\text{N} \sim 50^{\circ}\text{N}$

イワシ7、シロナガス換算 1.1^6

西経の中緯度高気圧に入るべく急速移動したが、途中のガス域広く視界不良の日が続いた。

8. 西経漁場 8月22日～8月25日 4日間

緯度 $42^{\circ}\text{N} \sim 49^{\circ}\text{N}$

マツコウ33

中緯度高気圧の圏内で操業したが発見うすく成果は上らなかった。食糧、燃料残の関係もあり東進にも限度があると考えたので、前回操業した北側マツコウ漁場へ向けることとした。

9. 後期列島漁場(東経) 8月26日～8月28日 3日間

緯度 $50^{\circ}30'\text{N} \sim 52^{\circ}30'\text{N}$

ナガス1、イワシ4、シロナガス換算 1.1^6

天候の良いのは列島沿いだけであったので前回の漁場の回復に期待しコマンドル周辺まで足を伸ばしたが、成果は上らずマツコウは発見できなかった。

10. 東経マツコウ漁場 8月29日～9月5日 8日間

緯度 $45^{\circ}30'\text{N} \sim 51^{\circ}00'\text{N}$

捕獲0

台風くずれの来襲で3日間操業不能の日が続いたが、その他は比較的天候に恵まれた。初期マツコウの発見のあった場所及び昨年切揚げ時に操業したマツコウ漁場を入念に探鯨したが、漁場は変化し

発見皆無であった。他の漁場は天候も悪かったのでこの漁場を最後に9月5日に切揚げた。

11. まとめ

今年の漁場水温は初期に於ては1で述べた通り18北、19北(昭和44年、45年度)にくらべて高かったが、この時期50°N以北では前年よりもかなり低かったようである。漁末期に至り南寄りの初期漁場の水温は昨年にくらべ4℃前後低くなっていた。これは黒潮の勢力が弱かったとも考えられるが、親潮が強くマツコウジラは北上できなかったのではないかと考えられる。

第1表 19北—20北 日本船団捕獲実績

			東 経	西 経
45°N 以北	19北	イワシ	1,076	797
	20北	イワシ	692	683
	19北	マツコウ	781	386
	20北	マツコウ	486	775
45°N 以南	19北	イワシ	112	1,250
	20北	イワシ	1,108	46
	19北	マツコウ	23	1,510
	20北	マツコウ	130	412